

吉井つるがしま里山サポートクラブ 活動報告書（令和5年度）2023年

9	月	日	曜日	開始	終了	場 所	会員参加数
	9	2	土	8 : 30	15 : 30	藤金市民の森	19名
活動名称	藤金里山体験会					報告者 ：吉井 優	

1、活動目的

私達が市民管理協定で整備している藤金市民の森は、整備された雑木林が清々しく、近隣住の散策路として親しまれている。藤小の野外学習でも使っているが、この森を子供たちに積極的にアピールし、楽しさを通して森の大切さを理解してもらいたい。自然環境でいろいろな体験をした子ども達は、イメージ力、創造力、コミュニケーション力、協調力・忍耐力、問題解決能力が増すとされている。なにより、非日常的な体験により、好奇心にあふれた旺盛な知識欲とともに心の豊かな大人に育ててくれることを期待する。

2、活動内容ほか

8時前からツリーイング指導団体は、ツリーイング準備をはじめていた。我々里山クラブスタッフは、8時半ごろ集合し、ハンモック張り、綱渡りロープ設置、川遊びの準備を始めた。9時ごろ協力団体スタッフも集まり、全員で準備作業に協力した。昨年秋に続いて、なかよしっこクラブが森の宝さがし体験を開催し、子どもたちが楽しめた。

9時半から、受付を開始し、9時50分にイベント開始セレモニーを実施し、10時からツリーイング、ハンモック、綱渡り体験を開始した。11時から魚とり体験を実施し、12時に午前の部を終了し、昼食休憩とした。

12時半から午後の部を開始し、13時には、午後の魚獲りも行った。14時半から片付けをはじめ、15時に全て終了した。

3、評価：

7月、8月の毛呂山、坂戸のイベントが猛暑のせい、参加者が思うように集まらず低調であった。そこで9月とは言え、猛暑となり不安を抱えた開催となったが、結果子ども70名大人51名参加があり、予定人数の8割程でほっとした。10年ほど前から藤金市民の森では開催しており、森の中は、暑さをしのげるとの認識が広がっていたと思われる。またツリーイングの魅力が暑さに勝ったものとも思われる。

ツリーイングは、いつものように大人気であったが、綱渡り、ハンモック、魚とりも、ちょうど良い程度ににぎわっていた。私は魚獲りを担当したが、女の子に人気があり、いつまでも川から出てくれなくて、川辺の土手でひたすら見守りを続けていた。魚獲りで特筆すべきことがあり、毎回カダヤシを獲っていた川で、初めて在来種のアブラハヤが獲れた。上流の旧給食センター横の大谷川で大量のアブラハヤを捕獲したことがあったが、市民の森の近くでは、カダヤシ、オオクチバス、鯉の外来種しか見つからなかった。昨年、カワムツを藤小の児童が見つけた。今年は、アブラハヤを見つけることができ、生態系が戻ってきたとの希望がもてる発見であった。

また、なかよしっこクラブの子ども達がツリーイングで上まで登れたとうれしそうに報告してくれたこと、最後の感想会で、手を上げて発言してくれたことなど、森の体験は、子ども達に変化を与え、元気にしてくれる事を改めて感じた。

4、課題

流しソーメンにからむごたごたがあったり、準備搬送備品リストを省略したら、いろいろ

な物品不足を指摘された。次回から必ずリストを発行して確認するようにすること。
(救急箱、エコフォーム、バーナー、ビニルテープ、ガムテープ、剪定バサミ、鎌等)

<里山参加会員>

大森、石川、小澤邦、村上、石黒、阿部、佐野英、
小嶋、鈴木寿、田中、吉富、松井
杉山、吉井、小澤弘、牛島、小沼 途中参加 風祭、伊佐山

<活動写真>

